



1. 東側の外観。工房は外部と一体で利用できる。
2. ライブラリーに直結したエントランスホール
3. 高低差を持ちながら建物全体に広がるライブラリー
4. ライブラリーと一体で利用できる2階の教室



日建連表彰2021



第62回BCS賞

軽井沢風越学園

選定理由

【選考委員】
竹内徹・堀部安嗣・大西正修

軽井沢風越学園は軽井沢の豊かな自然に囲まれた地に建つ、幼稚園児から中学三年生まで年齢差十二歳に渡る児童・生徒が学ぶ混在校である。広大な敷地にある森や林、広場は学園設立の趣旨から、なくてはならないものであった。そのコンセプトは、「同じから違うへ、分けるから混ぜるへ」「みんな違うことを大切に、あらゆる学年のあらゆる子どもが混ざり合いながら、自由に生きていくための力を育む」とある。あえて学年別のクラスを設けない明快な意図がそこにあり、自然と混ざり合い、年齢差を超えた人と混ざり合うという本計画の骨格が表れている。

これまでにない学校を設立するということで、建築主である学園と設計者は議論を重ね、「ライブラリは扇形状に広がっているが、屋根はいくつかに分節され、その隙間のハイサイドライトから自然への抜けが心地よい。屋根ごとに異なる構造架構が採用されているが、これら複雑な構造体群がエキスパンション・ジョイントのない一体の大屋根として解かれている。直交軸のない、一体であるが故に逃げのない、複雑な鉄骨屋根構造が見え隠れし

りーが中心にある学校」「ワンルーム状の空間」にたどり着いた。また、空間配置の振り所として眼前にある浅間山へと向かう軸線を中心とし、扇形に空間が開かれる案が採用された。扇の要にライブラリーが配置され、ライブラリーは高低差をもちながら建物全体に広がっている。ライブラリー空間の中にルームがあり、そこで年齢差のある子どもたちの学びが行われ、疑問があるライブラリーに出て本を探す。ルームのレイアウトとしては、吹抜けやスロープで繋がった二階を学びのルームとし、外部・自然と繋がる一階にラボや特別教室を配置し、体育館・音楽室は最も遠くに配置し、アクティビティのバランスをとっている。ワンルームの音環境は、ゾーンごとに吸音力の大きさを定めてコントロールしているが、それよりも、小さな子どもたちも年長者の様子を見て、静かにすべきところは静かに

しており、この工夫に満ちた施工の跡に生徒たちはものづくりのおもしろさを発見し、学ぶであろう。

本に囲まれれば自然に開いた空間、軸線上にあるオープンなラボ環境、本を持って籠るには理想的な屋根裏基地など、これらの環境で成長していく子どもたちの未来像は明るい。学園の理念に立ち、このような環境を企画・計画・建設し、独自の教育・運営を行っている本校は、BCS賞に相応しい。

軽井沢風越学園 概要

- 所在地 長野県北佐久郡軽井沢町大字発地1278-16
- 建築主 学軽井沢風越学園
- 設計者 (株)環境デザイン研究所、(株)KAP、(株)テーテンス事務所
- 施工者 北野建設(株)
- 竣工日 2020年1月17日

- 敷地面積 69,363.10㎡
- 建築面積 5,322.74㎡
- 延床面積 6,771.52㎡

- 階数 地上2階
- 構造 鉄骨造



詳細や他の写真などは
左記のQRコードからWebページに
アクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2021 第62回BCS賞受賞作品》 有明体操競技場/大宮区役所・大宮図書館/軽井沢風越学園/The Okura Tokyo/大倉集古館/渋谷ストリーム/昭和電工(大分県立)武道スポーツセンター/大丸心斎橋店本館/高崎芸術劇場/知立の寺子屋/日本橋室町三井タワー/日本橋スマートエネルギープロジェクト/東大阪市文化創造館/福田美術館/松原市民松原図書館「読書の森」/ミュージアムタワー京橋/ミラion(長崎県立長崎図書館、大村市立図書館、大村市歴史資料館)

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2021年で62回を数えました。